

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

プロフィール 1970 年生まれ 46 歳
早稲田大学大学院 政治学研究科修了
H27 年 千葉県議会議員 2 期目当選

岩井やすのり 議員事務所

TEL : 0476-36-7799

HP : <http://www.iwai-y.jp> メール : mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23(栄町役場前大山ビル 2F)

低いがん検診受診率～精密検査も伸び悩み

わが国の受診率 3～4 割/欧米 7 割と格差

平成 25 年に実施された国民生活基礎調査によると、日本のがん検診受診率は、男性では、胃がん、肺がん、大腸がん検診の受診率が 4 割程度、女性では、乳がん、子宮頸がん検診を含めた 5 つのがん検診の受診率が 3～4 割台となっています。欧米で 7～8 割台の乳がん、子宮頸がん検診受診率が、わが国では 3 割台にとどまる等、先進諸外国の中でも低位というのが現状です。

受診しない理由「費用がかかる」が最多

ところで、がん検診の受診方法は、市町村検診と職域検診の 2 つに分けられます。働いている職場で、定期健診と併せて行われることが多い職域がん検診と異なり、自営業者や主婦が利用する市町村がん検診は自ら調べて申込み必要があり、その受診率は低くなります。例えば、千葉県の市町村がん検診受診率は、胃がん、子宮頸がんが 10% 台であるのをはじめ、いずれも冒頭に挙げたわが国のがん検診受診率(男性 4 割程度、女性 3～4 割)を大きく下回っているのです。

なお、内閣府が実施した調査によれば、がん検診を受診しない理由は、「費用がかかり経済的にも負担になる」(38.9%)、「がんであるとわかるのが怖い」(37.7%)

印旛郡市のがん検診受診率(市町村がん検診分)

	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
印西市	18.9%	25.6%	29.0%	34.7%	30.0%
栄町	15.9%	20.5%	23.9%	23.1%	21.8%
酒々井町	22.4%	30.0%	32.8%	27.4%	16.2%
成田市	17.8%	36.6%	32.1%	21.4%	13.6%
県全体	13.6%	31.1%	27.7%	23.3%	19.4%

千葉県HP「平成24年度市町村別がん検診プロセス指標」より

市町村がん検診の自己負担額

	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
500円以下	7.6%	51.3%	42.9%	4.9%	7.2%
501～1,000円	14.5%	25.8%	23.9%	17.5%	22.3%
1,001～1,500円	12.9%	3.8%	5.0%	17.8%	18.1%
1,501～2,000円	13.8%	0%	0.1%	15.8%	17.2%
2,000円以上	33.6%	0%	2.6%	12.5%	7.7%

厚生労働省「市区町村におけるがん検診の実施状況等調査」(平成24年度)より

等が上位となっています。公的機関でがん検診を受ける場合、自己負担額は 2～3 千円というのが一般的ですが、無料で行われる場合もある等、市町村によって対応はまちまち。住民の健康に関わる重要課題であるだけに、国・県の公費負担によるさらなる底上げが必要です。

胃がん、肺がんの精密検査受診率 4 割台

また、厚労省が全国の健康保険組合に実施した調査によれば、職域検診の受診率は、肺がんが最も高く 72%。その他の大腸がん、胃がん、肝臓がんも、国が目標とする 5 割を超える一方で、乳がん 35%、子宮頸がん 32%と、婦人科系の受診率が低い傾向にあります。さらに問題なのは精密検査の受診率。検診で異常がみつかった人のうち、精密検査を受けたのは肺がん 45%、大腸がん 45%、胃がん 44%等と、いずれも低い割合となっています。

途中で精密検査や治療を受けなければ、がんの早期発見、早期治療に繋がられず、検診そのものが無駄となります。がん検診の内容や意義についての啓発を進め、精密検査受診率の向上が求められるところです。

歩道内電柱への衝突事故防げ～県道危険箇所の対策を要望

周辺環境の変化などによって、歩道の真ん中に取り残された電柱。身体障害者等の歩行の妨げになるばかりか、自転車での死亡事故も発生しており、衝突事故の防止対策が求められます。



歩道内の電柱（印西市木刈）…電柱標識板さえ設置されていない

印西市内の県道交差点 未対策の歩道内電柱

県道千葉ニュータウン北環状線と市道・浦幡公園通りが交差する交差点は、住宅街にありながらも4車線道路に右左折レーンが設けられた大きなものです。自動車の往来はもちろん、朝夕などには、通勤や通学等に多くの歩行者や自転車が行き交います。

さて、地元住民から指摘をいただいたのは、県道交差点近くの歩道に設置されている電柱や街灯柱。歩道のほぼ真ん中にあるため、ただでさえ歩行の邪魔になっている上、電柱標識板もけが防止用のカバーも設置されていないため、視覚障害者や夕暮れ時の自転車利用者が衝突し、大事故となる危険があるのです。



衝突を防止する電柱標識板

埼玉県では金属柱に自転車衝突 男性重体に

埼玉県さいたま市では、自転車の男性が歩道の真ん中に立っていた金属柱に衝突し、意識不明の重体になる痛ましい事故も発生しています。同市では、事故発生後に、衝突した金属柱と、同様に歩道中央に立つ近くの街灯柱に、黄色の反射材などを巻き付けたというものの、遅きに失したと言わざるを得ません。



横断歩道前の車止めにも反射板を

なお、この金属柱は、当初は車道の隅にあったものが、歩道を整備した際に真ん中になってしまったものであり、多くの歩道内電柱がこうした「取り残された」ものであるようです。

鳥取県では電柱移設事業に年間1千万円の予算

鳥取県では、身体障害者やベビーカー利用者にとっても危険となる、歩道幅員が狭い箇所にある電柱類を移設する「歩道電柱移設事業」に、年間1千万円余りの予算を計上。電柱管理者との協議の上、県管理歩道の安全確保に取り組んでいます。

印西市木刈付近の未対策の電柱について、移設または電柱標識板等の設置による衝突事故防止策の実施を強く要望する一方、千葉県としても鳥取県の先行事例を参考に、県管理道路上の危険な電柱類を移設する事業を設け、相応額を予算計上することを求めています。

歩道の真ん中の電柱

